

## 会 議 議 事 録

会議名	2019年度 第1回 教育課程編成委員会	専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 専門学校 東京工科自動車大学校品川校
開催日時	2019年6月7日(金) 15:00 ~ 17:00	
会場	東京テクニカルカレッジ 11階教場	
参加者	委員	17人 (参加者) ・佐藤 康夫(全体会議長)、  ◇1級教育課程分科会 ・山口 泰之(1級分科会議長) ・増田 智秀 ・齋藤 昭男 ・酒井 彦樹 ・宮谷 真樹 ・井上 真一 ・浅井 恵一 ・園田 幸祐(書記)  ◇2級教育課程分科会 ・松村 道隆(2級分科会議長) ・国分 秀貴 ・永野 英臣 ・清 宏一朗 ・大島 功孝 ・高橋 輝彦 ・武井 和則 ・澁谷 健(書記)  (欠席者) ・油井 文江
	事務局	1人 ・開田 実(全体会 書記)
配付資料	全体会配布資料 <ul style="list-style-type: none"> <li>● PP資料・・・全体会資料(次第含み)</li> <li>● 資料1・・・H30年度 中野校・世田谷校・品川校 学校関係者評価委員の評価書</li> <li>● 資料2・・・2019年度教育課程編成委員会名簿</li> <li>● 資料3・・・2018年度第2回会議 議事録</li> </ul> ◇出席者・配布資料確認  <div style="text-align: center;">           _____ 全体会 _____         </div>	
全体会 報告事項	<b>1. 開会挨拶 (全体会議長)</b> 議長より2019年度の本会議開催に向けて以下の説明・報告がなされた。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職業実践専門課程関連             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価報告書に関する分類と評価方法の説明、及び評価結果について</li> <li>・学校関係者評価委員による各校の評価書について(資料1)</li> </ul> </li> <li>2) 平成30年度事業報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率</li> </ul> </li> </ol>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 東京工科グループでは8月末100%を目標としている。結果として、中野校1月末100%、世田谷校8月末100%、品川校9月末100% となった。</li> </ul> <p>・2019年入学生数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 自動車離れ・大学全入時代等の影響もあり、グラフの通り昨年よりも減少している。姉妹校 東京テクニカルカレッジは増えているため、小山学園としては昨年に比べ入学者増となる。</li> </ul> <p>・資格合格率(整備士国家試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 二級資格は例年通り、粗100%となっている。一級資格合格率は、中野100%、品川97%と全国トップレベルとなった。その背景には、一昨年、昨年度とJAMCA(全国自動車大学校・専門学校協会50校)校の平均を下回る、低い結果となったため、学内で1級プロジェクトを立上げ、試験問題の分析等を行い、授業そのものを見直した結果と考えている。</li> </ul>
審議事項	<p><b>2. 委員紹介</b></p> <p>・武井委員(進行)より 名簿と照らし合わせ、本年度からの新委員4名を加え、任期2年を更新された委員の紹介がなされた。(資料2)</p> <p><b>3. 議事</b></p> <p><b>1) 前回議事録の確認</b></p> <p>事務局より H30年度第2回教育課程編成委員会の確認が行われた。その際、議事録に記載されている内容で「策定案であるカリキュラム・ポリシーを策定後(本年度)に報告する」との記載があるが、昨年度は資格合格者を優先させポリシー策定を中断したため、完成に至らず、本会議では報告が出来ないとの説明と謝罪があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 以上の内容を含み 全員一致で承認</li> </ul> <p><b>2) 分科会 議長・書記の選出 出席者の確認</b></p> <p>事務局提案により</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1級課程分科会議長 山口委員、 書記 園田委員</li> <li>・2級課程分科会議長 松村委員 書記 澁谷委員</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全員一致で承認</li> </ul> <p>以上をもって、全体会を散会とし、分科会へ</p>
1級分科会 配付資料	<p style="text-align: center;">————— 1級教育課程分科会 —————</p> <p style="text-align: center;">配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教員対象『新機構・新技術』講習スケジュール</li> <li>● 自動車整備行政の現状と今後の取組について</li> <li>● 1級自動車整備科 履修時間表</li> </ul>
報告事項	<p><b>1. 令和元年度(企業連携)新機構・新技術に関する教員研修のスケジュールについての説明</b></p> <p>議長より令和元年度の教員研修についての目的及びスケジュールの説明がなされた。</p>

協議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>「1級課程として取り入れるべき内容を知る」、「教員の新技術知識の向上」</li> </ul> </li> <li>・研修のスケジュール内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・MIRAI(水素自動車)の座学、実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書には記載されていない内容であるが、すでに市販されている以上、知っておかなければならない内容である。</li> </ul> </li> <li>・Web版配線図説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>実際の現場では電子配線図が中心となっているため、教員の電子配線図活用スキルの向上を図りたい。</li> </ul> </li> <li>・PHV概要説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、学校の授業にもPHEVの内容を取り入れていく必要がある。</li> </ul> </li> <li>・MIRAI、プリウスPHVの試乗体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>教える側として学生に両者の違いを説明する上で役立つ内容である。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・研修の日程と参加人数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年7月31日 参加可能人数15名 各校5名程度(ただし超えるようであれば相談)</li> </ul> </li> </ul> <p><b>2. これからの整備士教育に必要な新たな取組についての意見交換</b></p> <p style="text-align: center;">— 1級カリキュラムに取り入れるべき内容 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議長より本議題の趣旨の説明がなされ、1級自動車整備科(中野校)の履修時間表(カリキュラム)の説明がなされた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→(学外委員)職業訓練指導員の資格を取得しているのか。</li> <li>→(学内委員)受験申請から合格までの流れと、3年生での科目(受験時期、合格率等)を説明。</li> <li>→(学外委員)中型運転免許、ウインチの特別教育、タイヤ空気充てん作業特別教育の科目は実施されているのか確認。学校で行っていれば、企業で行う内容を軽くできるメリットが有る。</li> <li>→(学内委員)現在は、中型運転免許、ウインチの特別教育、タイヤ空気充てん作業特別教育の科目は実施されていない。今後は、カリキュラムに反映させる必要があるのか検討が必要。</li> </ul> </li> <li>・議長より「自動車整備行政の現状と今後の取組について」の資料説明がなされた。非常に早いスピードで自動車整備に関する行政の対応が変化していく中、学校教育としてなにかできることはないか、意見交換を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→(学外委員)我々で早急に対応するべきは、OBDで対応する車検整備。どんなサービスマンでも車両からデータを読み取る知識が必要。学校では、OBDの作業が保安基準に関わることを理解させながら行う授業が大切になってくる。</li> <li>→(学外委員)社内教育での外部診断機の使用スキルは問題ない。</li> <li>→(学外委員)先進性や学校特有なものを求めすぎて、本末転倒になっている学校が見受けられるが、東京工科にはそのような学校になってほしくない。特定の新技</li> </ul> </li> </ul>
------	--

<p>2級分科会 配付資料</p>	<p>術を教えるよりも、ものの原理原則を理解していただきたい。基本的な原理原則がわかれば、応用が効く。実際の現場で学校教育の中で必要なことを聞いてきたところ、「電気 の知識」が一番大切。電気の知識がわからないことで、大きなミスを犯しているのが現 状。オートボックス等で売っている部用品の交換や取付ができるレベルを希望する。 →(学外委員) 資格試験に合格することは、大切であるが、卒業間近にはもう一度電気の 実習をやってもらいたい。 →(学内委員) 特定整備に関しての、販売会社の現時点での取り組みはどの様になってい るのか。 →(学外委員) 特定整備に関しては、分業化が進むのではないか。整備工場では行わず、 ガラス交換を行う会社が行うようになるのではないか。     ➤ 議長より 次回の分科会は、7/31に行われる教員対象新技術の報告と、1級のカー     リキュラムに関して継続して話し合いを行う提案がなされた。 以上をもって閉会とした。</p> <hr/> <p style="text-align: center;">2級教育課程分科会</p> <p>配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2級課程分科会 これまでの取組と今後の展開について</li> </ul>
<p>協議事項</p>	<p><b>議題: 学生に社会人としての一般的なスキルを身に付けさせる取り組みについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議長より前年度より本議題は継続課題となる趣旨説明がなされた。</li> </ul> <p>→本年度は学外委員の大多数が改選となったため、前年度に委員より吸い上 げた意見(資料)の確認と共に改めて各委員より意見を募ったところ、社会 /会社/仕事の厳しさ、職場での人間関係にアンマッチを感じ早期退職とな るケースが近年増えているとの声が多く挙がった</p> <p>→対策として在学中に一級課程で実施している企業実習等を経験させる事が 効果的ではないかとの意見が挙がり、そこで当分科会として二級課程にお ける企業実習の実施の提案をしてはどうかとの議長の申し出に一同が賛同 した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 次回分科会では「どんな内容でどの程度の期間実施する」のが好ま しいかを検討するうえで、各委員の所属機関で実施している企業実 習の事例を次回持ち寄り、報告・検討する事とした。</li> </ul> <p>以上をもって閉会とした。</p>

会議風景

<全体会>



<1級課程分科会>



<2級課程分科会>



事務局より  
次回日程

2019年 10月 11日(金)15:00~17:00 場所:東京テクニカルカレッジ(予定)

以上